

前箱田村西Ⅲ遺跡

ヤオコー前橋箱田店建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2013. 4

株式会社ヤオコー
株式会社シン技術コンサル
前橋市教育委員会



調査区全景（東から）



調査区北半部（南東から）



調査区南半部（東から）



1 番畦畔（西から）



3 番畦畔（東から）

口絵写真 2



6 番畦畔 (南から)



W-1号溝セクション (南から)



W-1号溝 (北から)



W-2号溝 (南から)



W-3号溝 (西から)



X-1号性格不明遺構 (東から)



作業風景

例 言

- 1 本書は、ヤオコー前橋箱田店建設工事に伴い実施された、前箱田村西Ⅲ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の所在は、群馬県前橋市前箱田町 122-1、122-4、123-1、123-5 である。
- 3 発掘調査は、平成 25 年 2 月 18 日から平成 25 年 3 月 8 日まで実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業は前橋市教育委員会の指導・助言及び監督のもと、株式会社ヤオコーから株式会社シン技術コンサルに委託され実施した。
- 5 調査体制は以下のとおりである。
 - 【前橋市教育委員会】 前原 豊・福田貫之
 - 【調査担当】 菊池康一郎（株式会社シン技術コンサル）
 - 【測量担当】 光松 章（株式会社シン技術コンサル）
- 6 本書の編集は、菊池が行い、執筆は第 I 章を福田、それ以外を菊池が行った。
- 7 本書に使用した遺構写真は菊池が撮影し、デジタル処理は坂本勝一（株式会社シン技術コンサル）が行った。
- 8 本書のデジタル編集は、大和律子（株式会社シン技術コンサル）が行った。
- 9 本調査における図面・写真は、前橋市教育委員会で保管している。
- 10 発掘調査に従事した作業員は、以下の通りである。（敬称略・五十音順）
 - 青山真佐子、五十嵐久也、池谷厚子、石倉稔夫、大村美枝子、織田明洋、小田桐康治、笠原健次、土屋孝夫、富澤弘幸、羽鳥百合子、平澤小百合、丸山威美、箕輪広志、吉原 猛
- 11 発掘調査の実施および本書の刊行にあたり、下記の諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（敬称略）
 - 株式会社技術開発コンサルタント、細谷印刷有限公司、山下工業株式会社

凡 例

- 1 本書掲載の第 1 図は国土地理院発行 1/25,000 地形図『前橋』を、第 2・7 図は前橋市発行 1/2,500 都市計画図を、それぞれ使用した。
- 2 遺構平面図に示した方位は、座標北である。
- 3 本遺跡の略称は、24A101 である。
- 4 土層の色調は『標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・（財）日本色彩研究所色票監修 2002 版）による。
- 5 本書における遺構種類の略号は、W= 溝跡、X= 性格不明遺構である。遺構名称は、隣接する前箱田村西Ⅱ遺跡の番号を踏襲し、新たに検出されたものは続きの番号を付した。
- 6 火山噴出物の表記は略号を用いた。浅間 C 軽石 =As-C、浅間 B テフラ =As-B、浅間 - 板鼻黄色軽石 =As-YP である。
- 7 遺構実測図において使用しているトーンの凡例は、以下の通りである。

 地山

目次

口絵写真1	
口絵写真2	
例言	
凡例	
第I章 調査に至る経緯	1
第II章 遺跡の位置と環境	1
第1節 遺跡の立地	1
第2節 歴史的環境	1
第III章 調査の方針と経過	3
第1節 調査方針	3
第2節 調査経過	3
第IV章 基本層序	4
第V章 遺構	5
第VI章 まとめ	10
報告書抄録	

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第5図 遺構平・断面図	8
第2図 調査区位置図	3	第6図 前箱田村西II・III遺跡合成図	9
第3図 基本層序柱状図	4	第7図 前箱田町周辺の推定条里	11
第4図 前箱田村西III遺跡全体図	6		

表目次

第1表 遺構観察表	9
-----------	---

第 I 章 調査に至る経緯

平成 24 年 11 月 2 日付けで株式会社ヤオコーより店舗建設工事に伴う試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、同年 11 月 8 日に試掘調査を実施し、浅間 B 軽石で覆われた水田跡を確認した。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、設計変更は不可能であるため発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成 25 年 2 月 15 日付けで株式会社ヤオコー、民間調査組織である株式会社シン技術コンサル北関東支店、前橋市教育委員会との間で発掘調査実施に関する協定書が締結され、同年 2 月 18 日から現地調査が開始された。

第 II 章 遺跡の位置と環境

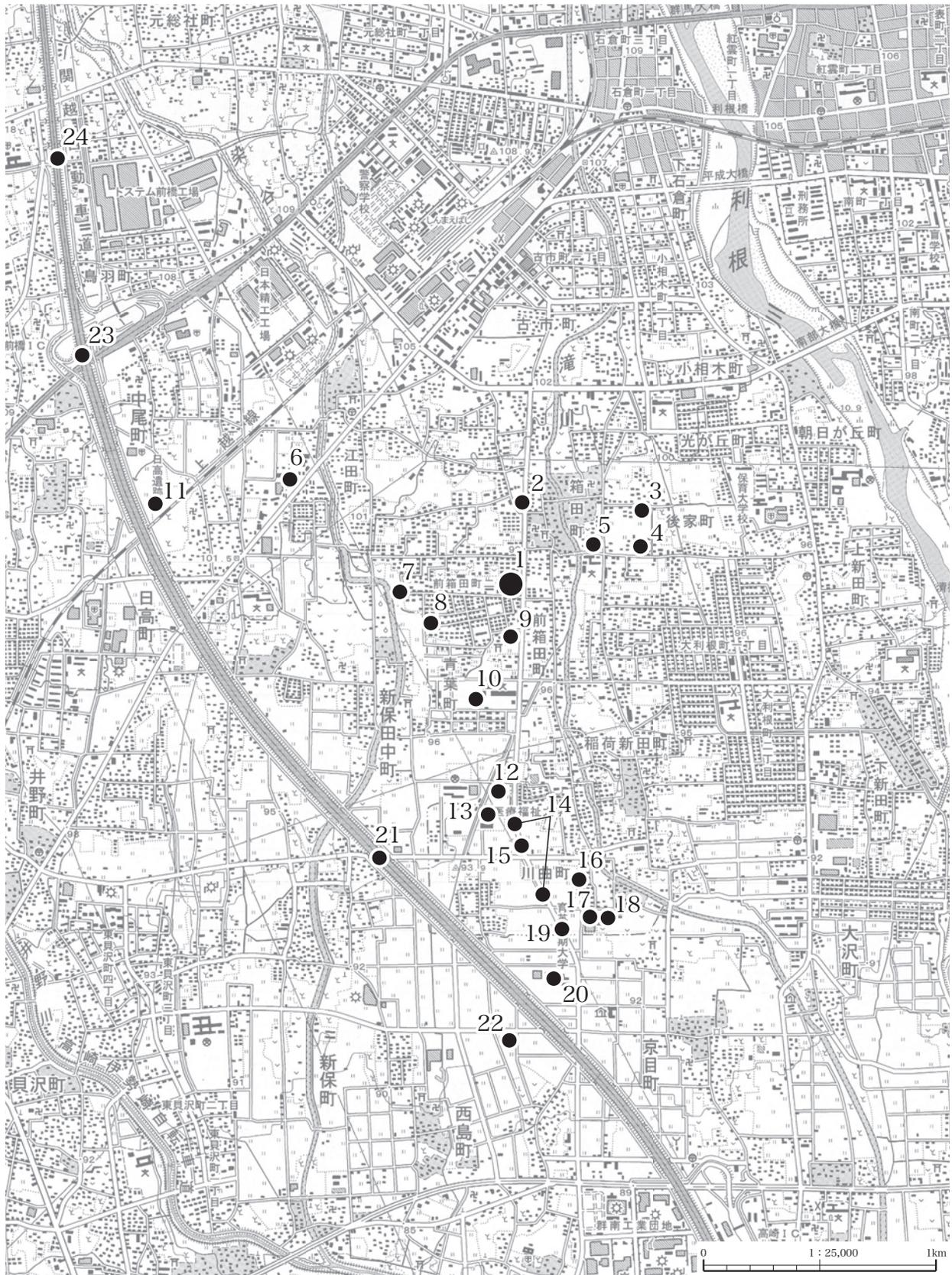
第 1 節 遺跡の立地

前箱田村西Ⅲ遺跡は、前橋台地のほぼ中央の利根川右岸に位置する。前橋台地は、浅間山の爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物と、それを被覆するローム層からなる洪積台地である。本遺跡は、前橋市役所から直線距離にして約 3 km、新前橋駅から 1.5 km ほど離れた、市の南西部に所在する。周辺の標高は約 98 m でほぼ平坦であるが、わずかに北西から南東に傾斜している。東に約 200 m のところには滝川が、西に約 500 m のところには染谷川がそれぞれ南流している。両河川に挟まれた地域は後背湿地と自然堤防からなっており、前者は古くから水田として利用され、後者は集落が発達してきた。本遺跡周辺は後背湿地にあたるが、近年は急速に宅地化が進んでおり、昔の面影はほとんど残っていない。

第 2 節 歴史的環境

本遺跡が所在する前橋台地周辺は、上越新幹線や関越自動車道建設に伴う発掘調査によって、古代の水田跡が多く検出されている。特に、本遺跡の西 1.5 km ほどに位置する高崎市域にある日高遺跡は、群馬県における水田研究の端緒となった遺跡として知られている。日高遺跡以外にも、勝呂遺跡、村前遺跡、五反田遺跡、箱田境遺跡、前箱田遺跡、柳橋遺跡、稻荷遺跡、下新田中沖遺跡、下新田中沖Ⅱ遺跡、箱田川西遺跡、川曲柳橋遺跡などで、本遺跡と同様の平安時代の水田跡が検出されている。また高崎市域ではあるが、前述の日高遺跡や西島遺跡群では、条里地割りに沿った大畦畔が検出されている。

水田跡以外の遺跡としては、本遺跡の北約 4.5 km には宝塔山古墳・蛇穴山古墳・二子山古墳などがあり、総社古墳群を形成している。宝塔山古墳の南西約 1 km には、同時期に建造されたとされる山王廃寺跡があり、金堂と推定される基壇建物跡や多数の瓦が検出されている。山王廃寺跡からさらに 1.5 km 南西には、上野国国分寺・国分尼寺跡が並立している。また、本遺跡の北西約 2.5 km の元総社町は、上野国国府が置かれていたと推定されている場所である。



- | | | | | |
|--------------|-------------|--------------|-------------|------------|
| 1 前箱田村西Ⅱ・Ⅲ遺跡 | 2 箱田川西遺跡 | 3 五反田遺跡 | 4 五反田Ⅱ遺跡 | 5 村西遺跡 |
| 6 勝呂遺跡 | 7 新保田中村前遺跡 | 8 箱田境遺跡 | 9 稲荷遺跡 | 10 前箱田遺跡 |
| 11 日高遺跡 | 12 川曲島野遺跡 | 13 柳橋遺跡 | 14 川曲柳橋Ⅱ遺跡 | 15 川曲柳橋Ⅲ遺跡 |
| 16 地藏前遺跡 | 17 川曲毘沙門前遺跡 | 18 川曲毘沙門前Ⅱ遺跡 | 19 川曲地藏前Ⅱ遺跡 | 20 京目作道遺跡 |
| 21 新保遺跡 | 22 西島遺跡群Ⅱ | 23 中尾遺跡 | 24 鳥羽遺跡 | |

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第Ⅲ章 調査の方針と経過

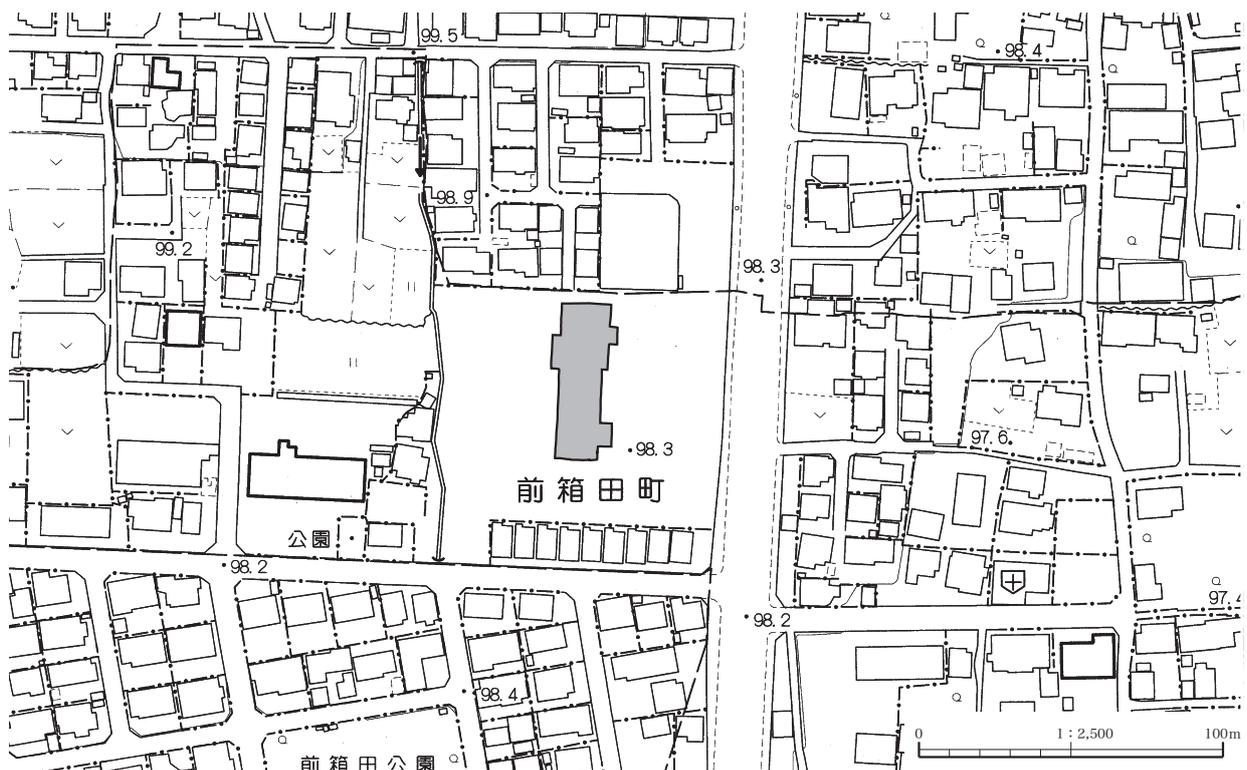
第1節 調査方針

調査区は、東西16m前後、南北約52mの建物建設予定地部分東側（西側は平成12年に調査済み）で、面積は約900㎡である。グリッドは、隣接する前箱田村西Ⅱ遺跡のグリッドを踏襲し、西から東へX15、X16、X17…、北から南へY8、Y9、Y10…と付番した。グリッドの呼称は、北西隅の名称を使用した。このグリッドは日本測地系に基づく平面直角座標第Ⅸ系の座標軸を用いており、X18・Y15の座標はX=70,128.000m、Y=-40,444.000mとなっている。

調査方法については、表土掘削・遺構確認・遺構調査・遺構測量並びに写真撮影の順序で行うこととした。図面作成については、トータルステーション・電子平板を用いた器械測量を行った。写真記録は、35mmカラーリバーサルフィルム・同モノクロネガフィルムの2種類を使用し、デジタルカメラによる補足撮影も行った。

第2節 調査経過

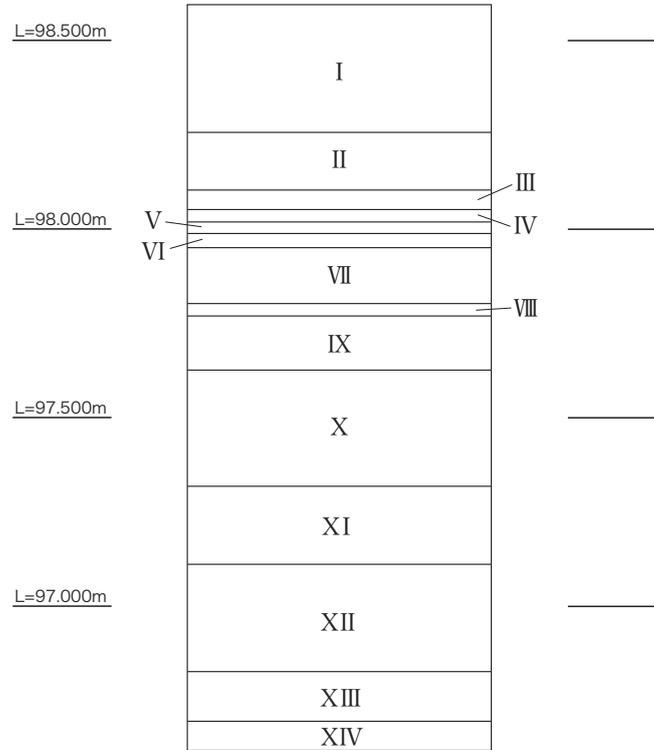
平成25年2月18日に調査区の設定を行い、重機(バックホウ0.7㎡)・仮設施設の搬入を行った。翌19日から、重機による表土掘削を開始した。表土掘削は調査区南側から行い、基本層序Ⅵ層上面までを重機によって掘削した。重機と並行して、ジョレンなどを用い、人力でAs-B(基本層序Ⅵ層)の除去・遺構確認を行った。調査区南側ではAs-Bの純層は部分的にしか確認できず、ほとんどがB混土層であった。一方北側では、層厚は薄いものの、ほぼ全面でAs-Bの純層が確認できた。表土掘削は、2月22日に終了した。2月25日から遺構調査を開始し、遺構掘削・水田跡検出などを行った。3月1日に高所作業車を用いて全景撮影を行い、遺構測量も全て終了した。3月4日から埋め戻し作業を行い、3月8日をもって現地における全調査を終了した。



第2図 調査区位置図

第IV章 基本層序

本遺跡の基本層序は調査区東壁北部で観察し、I～XIV層を確認した。I～II層は現代盛土層である。III層は褐灰色粘質土で、前箱田村西II遺跡のI層に相当すると考えられる。IV～V層はB混土、VI層はAs-B純層、VII層は遺構確認面である。VIII層はAs-Cを、XIII層はAs-YPを含む土層である。



第3図 基本層序柱状図

I層	碎石層	現代盛土層。
II層	黒褐色土	粘性弱、縮まり強。現代盛土層。
III層	褐灰色土	粘性弱、縮まり強。As-B含む。
IV層	明黄褐色砂質土	粘性弱、縮まりあり。As-B多量含む。
V層	暗褐色砂質土	粘性弱、縮まりあり。As-B多量含む。
VI層	灰色	粘性なし、縮まりあり。As-B純層。
VII層	灰色粘質土	粘性やや強、縮まりあり。
VIII層	灰色土	粘性やや弱、縮まりやや強。As-C含む。
IX層	黒色粘質土	粘性強、縮まりあり。
X層	黄灰色粘質土	粘性強、縮まりあり。
XI層	黄灰色シルト質土	粘性やや弱、縮まりやや弱。
XII層	黄灰色粘質土	粘性強、縮まりあり。
XIII層	黄灰色砂質土	粘性なし、縮まりあり。As-YP含む。
XIV層	浅黄色シルト	粘性やや強、縮まり強。

第V章 遺構

(1) 平安時代の遺構

平安時代の遺構としては、As-B（浅間Bテフラ：1108年降下）に被覆された水田跡・溝（W-2号溝）と、水田跡を切って南北方向に走る溝（W-1号溝）が検出された。

水田跡は、南北方向の畦畔1条、東西方向の畦畔4条が検出され、水田は7面確認された。遺構の名称は隣接する前箱田村西II遺跡の続きとし、1・3番畦畔は前箱田村西II遺跡で検出されたものと一連の遺構と考えた。検出された畦畔のうち、1号畦畔は上幅1.1m、下幅1.7mと広いことなどから、大畦畔（坪境畦畔）と考えられる。その他の畦畔は、上幅0.5m前後、下幅0.7m前後、高さ5cm前後であった。13号水田の東辺部分の6番畦畔のみ下幅1.13mとやや幅広ではあるが、推定されている周辺の条理などからみても、大畦畔ではないと思われる。検出された畦畔は概ね良好に遺存していたが、1・8番畦畔の東部とY15ライン以北の6番畦畔は、後世の耕作や攪乱によって破壊されたのか、確認することはできなかった。畦畔の主軸方向は、3番畦畔の西側が北に12°、8番畦畔が北に17°傾いている他は、おおよそ方位に沿っていた。水口は、3番畦畔の中央に1ヶ所、16号水田の北西隅に1ヶ所確認された。前箱田村西II遺跡の事例を含めて考えても、水口的位置や水口を設けるか否かについて、明確な傾向はないと思われる。

水田に関しては、調査区が南北に長い形状をしているため全容を確認できた水田はないが、前箱田村西II遺跡の状況も踏まえて記述していく。13号水田は、南北約6.3m、東西約19.6m、推定面積約123㎡である。10号水田は南北13.2m以上、11号水田は南北12.75～14.85m、14号水田は南北13.5mと概ね14m前後であった。12号水田のみ、南北20.1mであった。水田面には、浅い窪みが多少みられたが、比較的平坦で足跡なども確認されなかった。

W-2号溝は、攪乱の隙間で検出された、南北方向に長い溝状遺構である。As-Bの純層で埋没しており、水田と同時期の遺構と思われる。6番畦畔があったと推定される位置から2m程西に位置していること、底面が北に向かって低く傾斜していることなどから、水田に伴う水路とは考え難い。

W-1号溝は、調査区を南北に縦断する溝である。As-Bを多量に含む砂質土で埋没しており、IV層土に被覆されていた。最下層にはAs-Bの二次堆積が認められ、As-B降下後、さほど時間をおかずに掘削されたと考えられる。概ね直線的に掘削されているが、Y16～18付近では若干東に膨らんでおり、6番畦畔に並行するように掘削されたようにも見える。

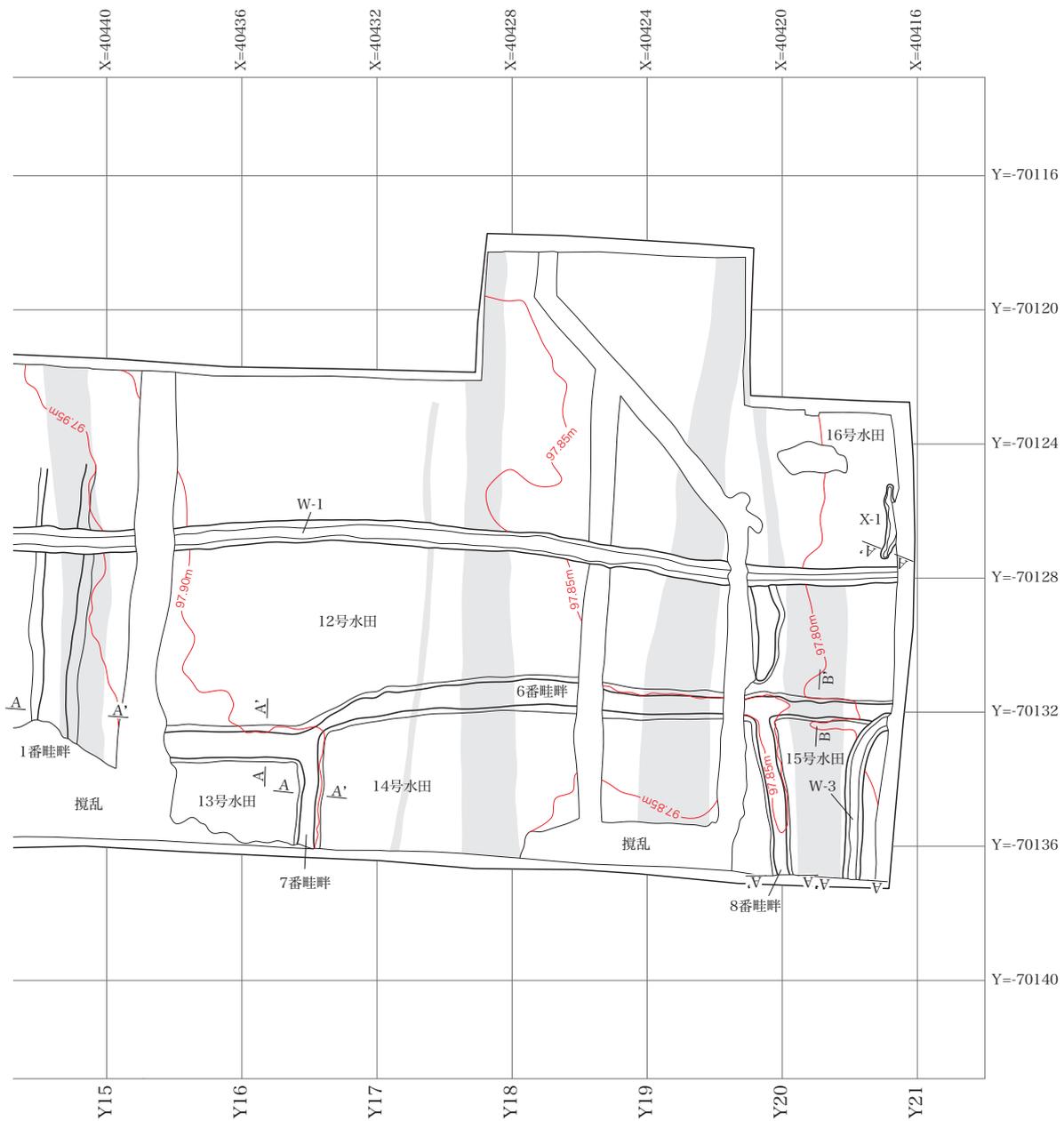
(2) 中世以降の遺構

中世以降の遺構としては、W-3号溝とX-1号性格不明遺構がある。W-3号溝は、IV層土上面から掘り込まれており、As-Bを多く含む砂質土で埋没している。東西方向に走行しており、6番畦畔に沿うように南へ折れ曲がっている。X-1号性格不明遺構は、平面形が蛇行する溝状を呈しており、W-3号溝と同様の覆土で埋没していた。長さが2m足らずであるため、性格不明遺構とした。

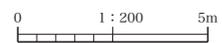
他に、遺構名称は付けていないが、V層土で埋没した幅の異なる帯状の耕作痕が確認された。幅1.6～1.9m程の耕作痕は、径10cm前後の小穴が帯状に集中しており、半月状の鋤跡とみられるものも複数みられた。幅20～30cm程の耕作痕は、半月状の鋤跡が1列に並んだものであった。前者は5条、後者は3条確認されたが、配置などに規則性は見受けられなかった。このような耕作痕は、規模こそ異なるが、前箱田遺跡でも確認されている。

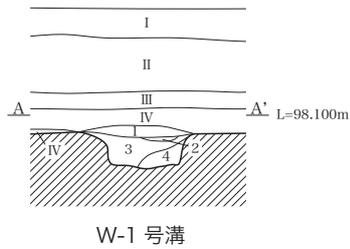
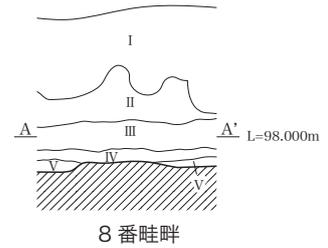
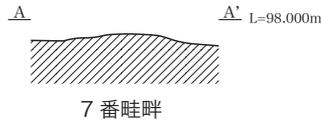
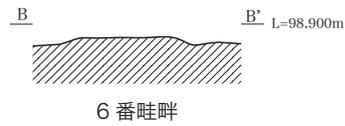
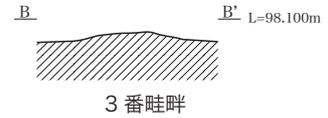
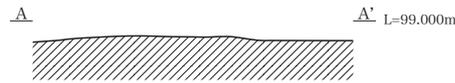
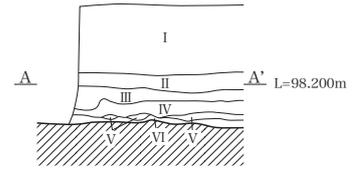


第4図 前箱田村西Ⅲ遺跡全体図

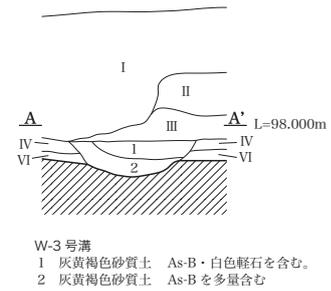


※ 中世以降の耕作痕

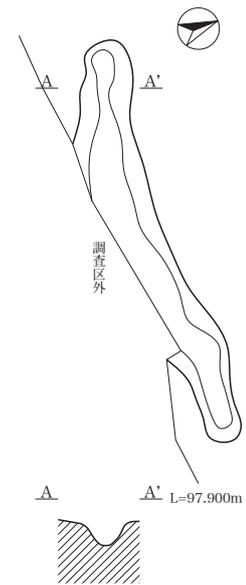
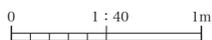
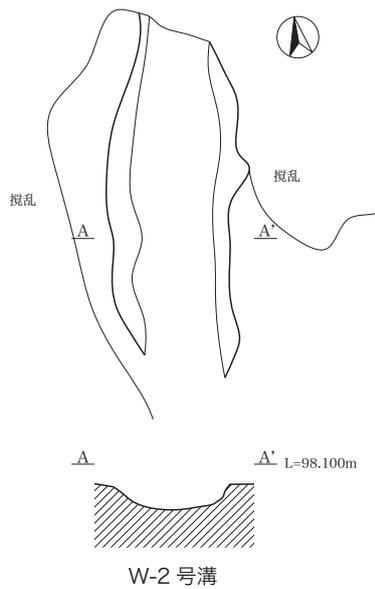




- W-1号溝
- 1 暗褐色砂質土 As-Bを多量含む。
 - 2 暗褐色砂質土 やや赤味を帯びる。As-Bを多量含む。
 - 3 暗褐色砂質土 As-Bを大量に含む。
 - 4 黒褐色と灰色の火山灰がラミナ状に堆積。As-Bの2次堆積か。



- W-3号溝
- 1 灰黄褐色砂質土 As-B・白色軽石を含む。
 - 2 灰黄褐色砂質土 As-Bを多量含む。



第5図 遺構平・断面図

第1表 遺構観察表

畦畔

番号	グリッド		方位	規模 (m)			方向	備考
	X	Y		上幅	下幅	高さ		
1	16~18	14	N-88°-W	1.10	1.70	0.07	東西	1面目
3	17~20	10~11	N-78°-W、N-86°-W	0.55	0.78	0.05	東西	1面目
6	16~17	15~20	N-1°-W、N-1°-E	0.40~0.78	0.66~1.13	0.02~0.04	南北	1面目
7	15~16	16	N-87°-W	0.44	0.73	0.05	東西	1面目
8	15~17	19~20	N-73°-E	0.48	0.67	0.05	東西	1面目

水田

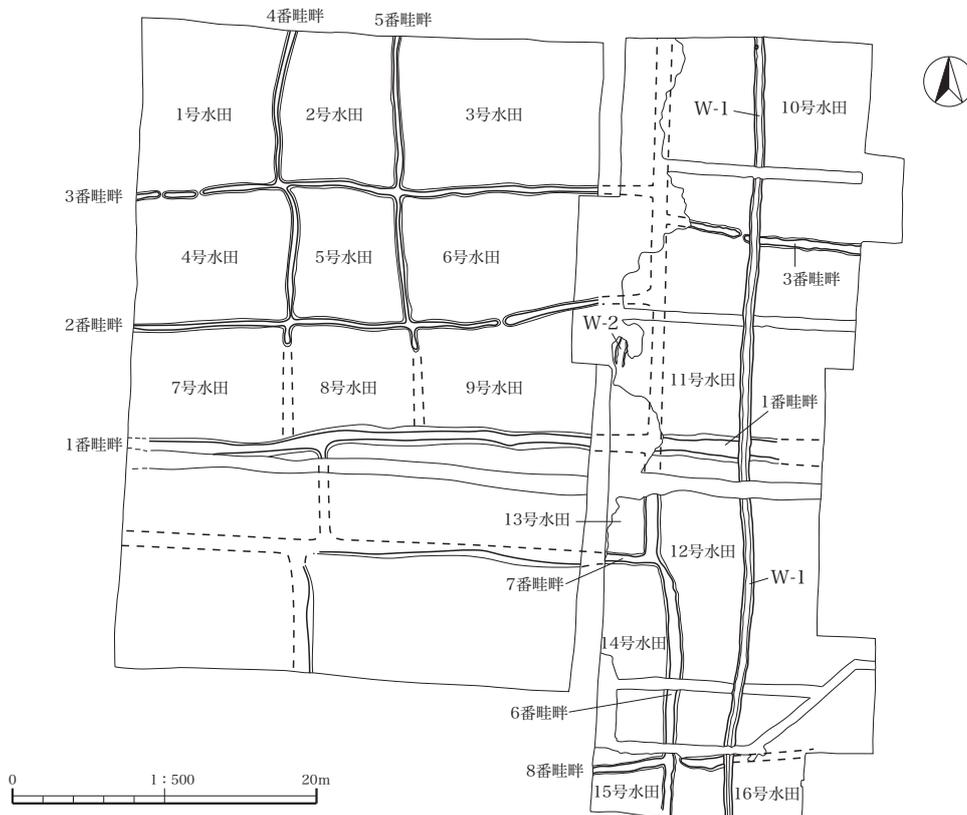
番号	面積	東畦	西畦	北畦	南畦	形状	水口
10	(180.88)	-	-	-	(11.45)	-	南側
11	(185.50)	-	-	(11.45)	(8.20)	-	北側
12	(223.37)	-	(17.45)	(7.50)	(2.85)	-	南西隅
13	(8.69)	(3.85)	-	-	(2.50)	-	-
14	(58.72)	(12.95)	-	(3.25)	-	-	-
15	(13.85)	(3.45)	-	(4.75)	-	-	-
16	(32.03)	-	(3.70)	(2.85)	-	-	北西隅

溝

番号	グリッド		断面形状	走行方向	規模 (m)			底面標高 (m)	時期
	X	Y			検出長	幅	深さ		
1	17~18	7~20	箱状	北-南 (N-2°-E)	52.35	0.68	0.18	97.70~97.83	As-B 降下後 平安時代末期
2	16	12~13	皿状	北-南 (N-10°-E)	1.85	0.66~0.74	0.13	97.80~97.92	As-B 降下前 平安時代後半
3	5~16	20	弧状	西-東 (N-88°-W)、北-南 (N-6°-W)	4.95	0.50	0.19	97.70~97.72	中世以降

性格不明遺構

番号	グリッド		断面形状	走行方向	規模 (m)			底面標高 (m)	時期
	X	Y			検出長	幅	深さ		
1	18	20	U字状	西-東 (N-86°-W)	2.23	3.45	0.13	97.61	中世以降



第6図 前箱田村西Ⅱ・Ⅲ遺跡合成図

第VI章 まとめ

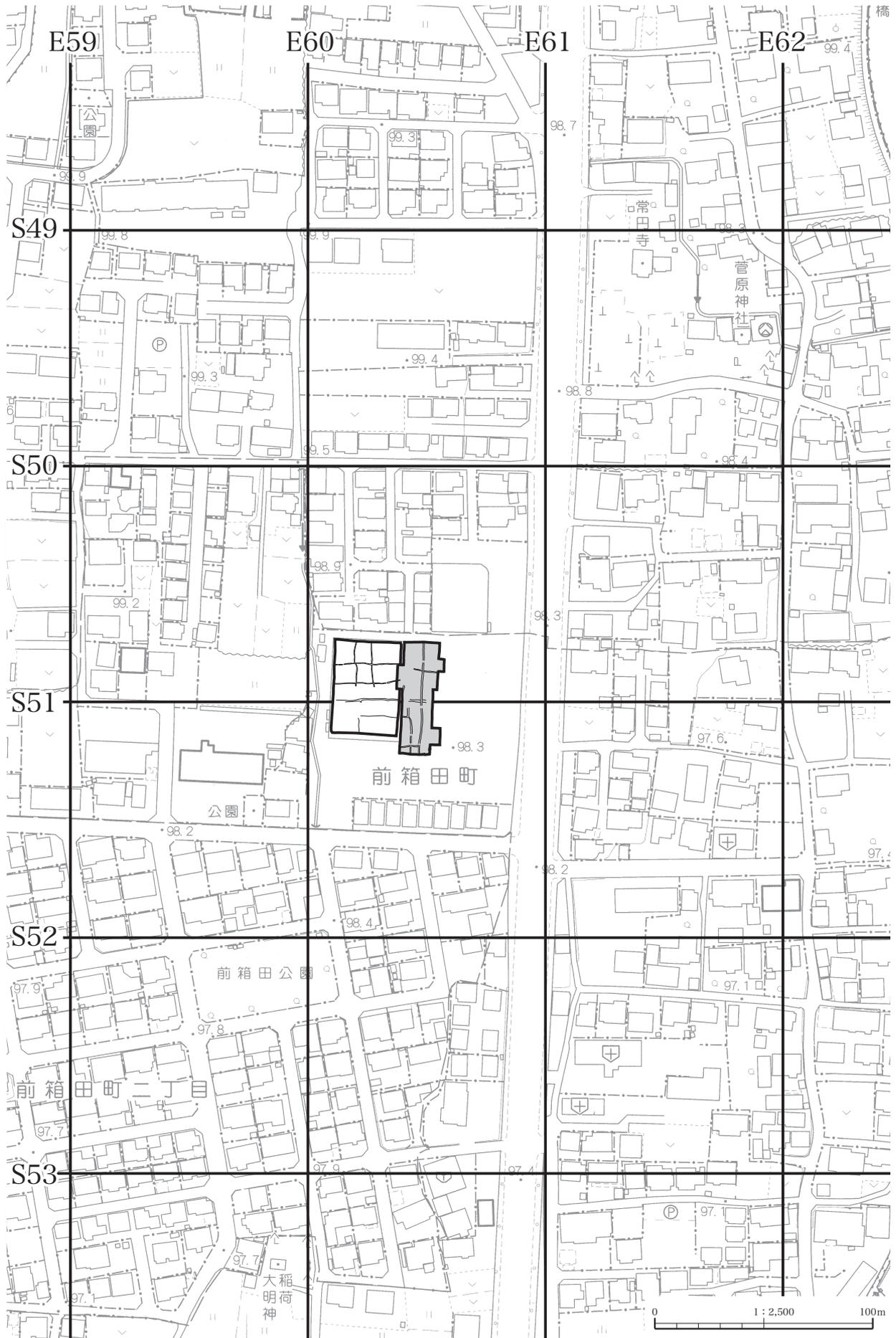
前箱田村西Ⅲ遺跡では、水田跡を始めとする平安時代の遺構と、溝などの中世以降の遺構が検出されたが、本章では主として平安時代の水田跡について記述する。1108（天仁元）年に降下したAs-Bに被覆された遺構としては、畦畔5条とそれに区画された水田7面が確認された。検出された畦畔5条のうち、1番畦畔は形状・規模などから大畦畔と考えられる。以下、周辺遺跡の調査事例も踏まえて、条里地割りについて記述していく。

本遺跡が位置する前箱田町周辺は、滝川・染谷川に挟まれた後背湿地に立地しており、数多くの水田跡が検出されてきた。北西約2.5kmには国府推定地である元総社町があることから、前箱田町周辺は、上野国府の南に広がる水田地帯であったとされている。周辺遺跡の調査事例をみても、古墳時代に遡る水田跡もいくつかは検出されているが、As-Bに被覆された平安時代の水田跡が大半を占めている。平安時代の水田は、条里制に基づいて1町（約109m）方格に区画されていたとされており、本遺跡の西約1.6kmの日高遺跡や南約2kmの西島遺跡群では、条里区画された水田跡や大畦畔が検出されている。また近年では、前橋都市計画道路新前橋川曲線道路改良に伴う発掘調査によって、川曲町などでも大畦畔が検出されたり、現在の道路が条里地割りに重なっている事実が判明したりしている。第7図は、『群馬県史』で提示された本遺跡周辺の条里を微調整して都市計画図と重ねたものであり、条里の名称は『群馬県史』と同一のものである。この図を見ると、東西方向のS51が通っている付近で1番畦畔が検出されており、1番畦畔が大畦畔であることは確実といえよう。1番畦畔のすぐ南には東西方向に延びる現代の溝が確認されているが、これは本遺跡が水田であった時の筆境を流れる水路であったことが、聞き取り調査などから判明している。また1本北のS50は、前橋と高崎を結ぶ脇道である「東道」と重なっており、前箱田町周辺においては条里地割りの一部が現代まで残っていたようである。

1町四方に区画された土地を坪と呼ぶが、坪の中はどのように区画されていたのであろうか。条里制における土地区画には、1坪を幅6間（約10.9m）で10等分する長地型と、1坪を幅12間（約21.8m）で5等分する半折型がある。本遺跡は、第6図でも推定しているように、1坪を東西方向に長く区画したように見える。そこで水田跡の南北幅を見ていくと、13号水田は6.9m、11・14号水田は14m前後、12号水田は20.1mと統一性はない。周辺遺跡をみても、大畦畔は検出されているものの、その内側は長地型とも半折型ともいえない区画がなされているようである。平安時代後半には、1坪内の区画は大分乱れていた可能性がある。

水田がAs-Bで埋没した後、さほど時間を置かずにW-1号溝が掘削されている。W-1号溝は、IV層土に被覆されていること、覆土にAs-Bの二次堆積がみられることなどから、As-B降下直後に水田を復旧するために掘削された用水路と考えられる。本遺跡ではAs-B（VI層）の残りがあまり良好ではないことも、復旧が試みられたことを示唆しているのかもしれない。ただし、W-1号溝は南北方向の6番畦畔の4、5m程東に掘削されており、As-B降下以前の地割りを忠実には踏襲していない。これも前述のように、1坪内の区画が乱れていたことを示す事例といえよう。

以上、本遺跡で検出された水田跡を概観してきた。畦畔の遺存状態が良好であったこと、As-B降下後すぐにW-1号溝が掘削されていることなどから、本遺跡は継続的に水田として利用されていたと推測される。ただし、水田面に足跡などが検出されていないことから、1108（天仁元）年時点では、休耕田であった可能性が高いと思われる。最後になってしまったが、今回の調査に御協力いただいた諸氏・諸機関に謝意を表し、結語としたい。



第7図 前箱田町周辺の推定条里

参考文献

かみつけの里博物館 『1108 浅間山大噴火、中世への胎動』 2004

群馬県教育委員会 『東山道』 1983

群馬県史編さん委員会 『群馬県史』 通史編 2 1991

西箱田自治会 『西箱田のあゆみ』 1994

前橋市教育委員会 『前箱田遺跡』 1983

前橋市史編さん委員会 『前橋市史』 第1巻 1971

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 『柳橋遺跡』 1994

『五反田Ⅱ遺跡』 1995

『稲荷遺跡』 1997

『箱田川西遺跡』 1998

『川曲毘沙門前遺跡』 1998

『前箱田村西Ⅱ遺跡』 2000

『川曲地藏前Ⅱ遺跡』 2005

『川曲柳橋遺跡』 2006

森田 悌 「上野国内の東山道」『群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編』 第45巻 1996 群馬大学教育学部

「古代上野国の東山道」『群馬文化』 第275号 2003 群馬県地域文化研究協議会

報告書抄録

フリガナ	マエハコダムラニシサンイセキ
書名	前箱田村西Ⅲ遺跡
副書名	ヤオコー前橋箱田店建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	福田貫之・菊池康一郎
編集機関	株式会社 シン技術コンサル
編集機関所在地	〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井 311-1
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町 2-10-2
発行年月日	2013年4月26日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
マエハコダムラニシサンイセキ 前箱田村西Ⅲ遺跡	マエバシシマエハコダマチ 前橋市前箱田町 122-1 ほか	102021	24A101	36° 21' 43"	139° 03' 06"	20130218 ～ 20130308	900㎡	ヤオコー 前橋箱田店 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
前箱田村西Ⅲ遺跡	水田 その他	平安時代 中世以降	As-B 下水田 溝 2条 溝 1条 性格不明遺構 1基 耕作痕	特になし	

前 箱 田 村 西 Ⅲ 遺 跡

ヤオコー前橋箱田店建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2013年4月19日 印刷
2013年4月26日 発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課
〒371-0018 群馬県前橋市三俣町 2-10-2
TEL 027-231-9531

編集 株式会社シン技術コンサル
印刷 細谷印刷株式会社
